

【担当教員】

猪原健弘 (東京工業大学大学院社会理工学研究科価値システム専攻教授) ほか

大岡山キャンパス西 9 号館 8 階 813 号室 (電話: 03-5734-3366、内線 3366、E-mail: inohara@valdes.titech.ac.jp)

【講義のねらい】

合意形成学の広がりと深さを学ぶ。特に、1. 合意形成の理論、2. 合意形成学の方法、3. 合意形成の実践、という 3 つのテーマから、合意形成学についての理解を深める。

【講義計画】

開講曜日時間帯: 水曜、10:45-12:15

講義室: W933

4 月 9 日: 猪原健弘 (東工大・価値システム専攻) 本講義についてのガイダンスを行う。

4 月 16 日: 猪原健弘 (東工大・価値システム専攻) **グループ 3**

テーマ: 合意形成学の構築

合意形成学は、合意形成の「理論」・「方法」・「実践」という 3 つの側面についての知識体系からなる。本講義では、既存の合意形成研究を紹介しながら、合意形成学の構築のために必要な取り組みと、達成されるべき目標を明確にする。そして、当科目の各回の内容と、そこでの合意形成のとらえ方を紹介することで、各回を合意形成学全体の中に位置づける。

4 月 23 日: 中井豊 (芝浦工業大学) **グループ 1**

テーマ: 合意の前提となる相互協力関係の生成と崩壊

概要: 血縁や地縁などのつながりが無い社会や組織において合意形成が実現されるためには、そもそも構成員が議論に参加しなければならない。ところが、構成員に利己的な人間を想定すると、この議論への参加自体を自明視できなくなる。本講義では、利己的な諸個人の集団にインフォーマルな協力関係が自己組織化し、合意形成の基盤が生まれる論理を探究し、その可能性と限界を明らかにする。

4 月 30 日: 錦澤滋雄 (東工大・環境理工学創造専攻) **グループ 2**

テーマ: 市民参加と合意形成

概要: 環境政策や計画の立案・実施においては、多様な利害関係者を含む市民参加が求められる。市民参加には主として文書、会議、電子ベースの 3 つの手法が存在するが、合意形成プロセスにおいてそれぞれが果たすべき役割は異なる。本講義では、環境政策やまちづくりにおける市民参加の意義や課題、主な手法とその改善策について、鹿児島県屋久島における持続可能社会づくりをテーマにした事例などを取りあげながら、合意形成の観点から解説する。

5 月 7 日: (月曜授業の日、本講義はなし)

5 月 14 日: 金子宏直 (東工大・価値システム専攻) **グループ 3**

テーマ: 合意形成と法的拘束力

概要: この回では、「合意」とは、民法等の法律にしたがう契約のような、法的に意味付けられるものを指す。合意形成のもっとも小さな単位として、契約の成立を取り上げる。この回の目的は、法律上、合意という概念がどのような概念を基礎にするものかを順に理解していくことにある。結論として、法律における合意の概念は二当事者を基本とする特徴があり、合意の主体が複数になる場合には、合意に関する諸原則をどのように修正するかが合意形成を理解するうえで重要となる。

5 月 21 日: 新田克己 (東工大・知能システム科学専攻) **グループ 4**

テーマ: 合意形成を支援するツール

概要: 合意を形成するためには、関係者の主張を比較し、分析し、幅広い観点から解決案を検討していく必要がある。この回では、まず合意形成のために利用されてきた問題解決の基本的な手法を紹介した後で、それらの手法をコンピュータで支援するツールを紹介する。支援ツールを 3 つのタイプに分類して、それぞれのタイプの機能の説明をした後、2 つの合意形成支援ツールの説明を行う。

5 月 28 日: 池上雅子 (東工大・価値システム専攻) **グループ 1**

テーマ: 東アジアにおける紛争予防・紛争解決

概要: 東アジアには日本周辺の領土問題を始め多くの係争問題があり、安全保障上重大な潜在的脅威となっている。したがって、こうした係争問題の紛争予防・紛争解決はアジアの平和と安全の為に喫緊の課題である。本講では、東アジアの安全保障上の具体的な問題に関する紛争予防・紛争解決の可能性と方策を考察する。

6 月 4 日: 坂野達郎 (東工大・価値システム専攻) **グループ 2**

テーマ: 討議型意識調査手法「Deliberative Poll」の実験

概要: 1990 年代から無作為抽出された市民による討議を公共的意思決定に活用しようとする社会実験が世界的に広がってきている。討議は社会の規模が大きくなると効率的でなくなってしまうため、近代民主制のほとんどは間接民主制を採用してきた。この回では、討議型意識調査手法「Deliberative Poll」の設計思想と事例をもとに、無作為抽出市民による討議は、規模と討議密度のトレードオフ問題に対処する手段として有効であり、討議民主主義実現の鍵となることを論じる。

6月11日：猪原健弘（東工大・価値システム専攻）**グループ3**

テーマ：合意と合意形成の数理－合意の効率，安定，存在

概要：この回では，「合意」を「すべての主体が同意する案が存在している状態」として，また「合意形成」を「状況の初期状態から『合意』にいたる過程」としてとらえ，合意と合意形成の数理的な定義を与える．そして，合意と合意形成の性質を分析し，合意案の効率性，安定性，存在を数理的に証明する．

6月18日：出口弘（東工大・知能システム科学専攻）**グループ4**

テーマ：社会シミュレーションを用いた合意形成

概要：合意形成ツールとしての社会シミュレーションの最近の発展を紹介する．

6月25日：桑子敏雄（東工大・価値システム専攻）**グループ1**

テーマ：社会基盤整備での社会的合意形成のプロジェクト・マネジメント

概要：この回では，合意形成を「多様な意見の存在を承認し，それぞれの意見の根底にある価値を掘り起こして，その情報を共有して，解決策を創造するプロセス」，「みんなで話し合い，熟慮された賢明な提案を採択し，笑いを含む工夫をこらしながら，決断へと至るプロセス」ととらえ，このようなプロセスを通じて得られた結果を「合意」とする．社会基盤整備での社会的合意形成プロセスの構築をプロジェクトとしてマネジメントする必要性と，マネジメントにおける合意形成プロセス構築の段階を設計・運営・進行とし，それぞれについて述べるとともに，合意形成プロセスを失敗に終わらせる要因を合意形成プロセスに対するリスクとしてとらえ，その対処の方法について論じる．

7月2日：高田知紀（神戸市立工業高等専門学校）**グループ2**

テーマ：自然再生事業における合意形成

概要：自然再生事業の推進は，日本の国土整備において重要な課題となっている．自然再生は，直接的にも間接的にも地域の人びとの暮らしに深くかかわる．したがって，多様なステークホルダーの事業への参加が不可欠である．さらに，自然再生への無関心層の存在もふまえなければならないことから，自然再生事業の参加プロセスで求められるのは，人びとの多様な関心と地域の自然環境の問題をつないでいくための創造的な合意形成を実現していくことである．本講義では，主に新潟県佐渡島での実践を概観しながら，自然再生事業における合意形成マネジメントの理論と方法論を紹介する．

7月9日：休講

7月16日：江渡浩一郎（（独）産業技術総合研究所）**グループ4**

テーマ：IT化の進展と合意形成

概要：この回では二つの視点からIT化進展と合意形成の関連を考察する．一つは，IT化は，今日，大きな社会変化と経済の構造的な変化をもたらしているが，そうした変化に対応するために社会的な合意形成が求められている点である．そこでIT化がもたらす変化の本質と必要な合意形成について考察する．もう一つは，IT化はインターネットの出現を通じて我々に合意形成の新しい手段を提供している．その内容を考察する．

7月23日：猪原健弘（東工大・価値システム専攻）レポート提出についての指示を行う。

7月30日：（期末試験・補講）予備日

8月6日：（期末試験・補講）予備日・レポート提出締め切り

【成績評価】

レポート（各グループにつき1つ（合計4つ））100%による．締め切りは，8月6日（水）．別紙「レポート提出の要領」参照のこと．

【テキスト等】

「合意形成学」（勁草書房，2011年）を教科書として用いる．また，必要に応じて資料を配付する．

【履修の条件】

本講義は，「合意形成学特別教育研究コース（コース長：猪原健弘教授，コース Web サイト：<http://www.ipcob.org/course/>）」のコース指定科目（必修）である．本講義を履修する場合，このコースを履修することが望ましい．このコースの履修方法や修了認定方法など詳細について，本講義の初回にガイダンスを行う．コース Web サイトもあわせて参照のこと．さらに不明な点がある場合は，courses@valdes.titech.ac.jp宛に問い合わせること．

【担当教員から一言】

「合意形成学」は，科学技術と実社会の間の不整合から生まれる社会問題を解決し，社会を円滑に運営するための基盤として，理工系の学生にも習得が求められています．優れた合意形成メカニズムの構築に必要な，さまざまな分野の「知」に触れてください．